

ポロニア

ポロニアは県花「桐」の学名です。

発行／岩手県高等学校PTA連合会

[事務局]盛岡市上田三丁目2-1 TEL (019)625-6386
E-mail iwa-koupen@aroma.ocn.ne.jp FAX (019)613-7795

令和元年度 県高P連 定期総会・研究協議会開催



▲岩手県高P連
渡辺正和前会長

岩手県高等学校PTA連合会（以下県高P連）令和元年度定期総会・研究協議会が6月5日、盛岡市のサンセール盛岡で開催されました。県内66校から単位PTA会長・副会長、校長、事務局長など253人が出席。今年度の事業計画・収支予算などが審議されました。



▲感謝状を受け取る渡辺前会長



▲感謝状を受け取る高橋前事務局長



▲受賞者の皆様

この日をもって退任する県高P連渡辺正和会長は挨拶の中で会長を務めた平成27年度からの活動について、同年の全国高P連岩手県大会、29年度の東北地区高P連盛岡大会と二つの大きな大会の企画・運営を通して各校PTAとの連携や団結につながった事など思い出の多い4年間を振り返りました。

議事に先立ち、PTA活動で功績のあった個人98人・広報紙コンクール入賞校8校が表彰されました。全受賞者を代表して齋藤憲一水沢農業高校PTA会長は「PTA活動は保護者の協力なしでは成り立たない事、ここであらためて感謝申し上げます。」と謝辞を述べました。

表彰式に続き来賓の佐藤博岩手県教育委員会教育長、佐藤有岩手県高等学校長協会会長、田口昭隆岩手県PTA連合会会長が祝辞を述べました。

議事では平成30年度会務・収支決算の報告、令和元年度役員選出活動方針・事業計画・収支予算案の審議に加え、特別助成費の申請や70周年記念行事の準備計画についてなど7議案が協議され、いずれも原案どおり承認されました。

役員人事は新たに清水成樹氏が会長が就任したほか、副会長その他についても原案どおり承認されました。



▲新たに就任した岩手県高P連清水成樹会長

また、その中で、渡辺正和前会長と高橋秀幸前事務局長に感謝状が贈られました。渡辺正和氏は「会員の皆

様、事務局の皆様への支えがあったからこそ4年間を務めあげることができた」と感謝を述べ、大会運営の際の苦難を一丸となって乗り越えたエピソードなどを語りました。また、清水成樹新会長へ激励の言葉を贈るとともに、会員のより一層の協力を呼びかけました。

総会に続き行われた研究協議では「CSによる地域と学校の連携・協働の推進」と題して、岩手県教育委員会事務局生涯学習文化財課社会教育主事三橋俊文氏が解説しました。

前段として「今日の技術革新に



▲三橋俊文氏

〈講演〉 演題「変わるスポーツと学校の可能性と限界」



講師
平藤 淳氏
（公益財団法人
岩手県体育協会
副会長兼理事）

総会に続き、岩手県体育協会の平藤淳さんが講演。

まずはじめに最近の岩手の競技スポーツの成績に触れ、スキートの小林陵侖選手、アメリカメジャーリーグで活躍する大谷翔平選手・菊池雄星選手などの目覚ましい活躍や、その他にも多くの岩手県出身・在住の選手が世界で好成績を残している事

より急速な社会の変化や少子高齢化、それに伴う生徒数・学級数の減少など多くの課題に直面している中で、時代を担う子どもたちの教育も新たなしくみづくりが求められている」と説明。続けて、そういった課題を解決し得る取組みとしてコミュニティスクール（学校運営協議会）について解説しました。

最後に地域と行政、学校の連携・協働を目指すこの取組みが何を指しどういった活動をしているのか、導入している研究指定校の取組みも紹介しました。

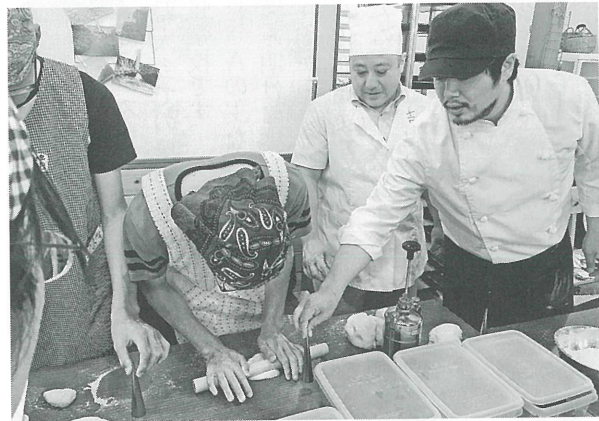
を紹介。こういった大活躍はいつごろから見られ、要因は何なのか、それが高校生に目を移すとどうなのかなど資料と共に見ていきながら話されました。

スポーツそのものが持つ意義と、それぞれの変わっていく活動形態や部活動についても触れ、スポーツを通しての学び、今後PTAを含め「学校」が担う役割とは何なのかなどを掘り下げて問題提起し、新たな可能性についてもお話されるなど示唆に富む講演会となりました。

岩手県立盛岡峰南高等支援学校PTA会長 中里 修



▲コーヒーの入れ方

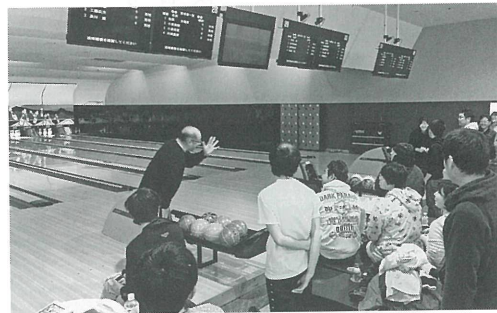


▲パン作り



本校は平成10年に普通科と職業学科が併設された高等部のみの養護学校として創立し、平成23年度からは学科変更のため、職業学科のみの

特別支援学校となり、昨年創立20周年を迎えました。生徒の出身地が県内全域にわたっているため、PTAの活動ごとに全会員が集まることは困難の状況にあり、参加率が高まらない状況にありました。そこで、それぞれの地域に根ざしたPTA活動の充実を目指し、圏域PTAの活動を活発に進めています。それにより、参加人数の増加、保護者間の交流の推進が図られるようになり、圏域活動において進路学習会を行うことで、子供たちの卒業後の生活について早期に考えるきっかけになっています。また、学年PTAとして進路説明会や親子レク等、年2回の活動を行っています。専門部の活動では、広報部は年に3回のPTAだよりの作成、厚生



▲ボウリング



▲職場見学

部は、学校の環境整備、峰南祭でのPTAバザーの活動、文化教養部では、PTA研修会を行っています。昨年は「コーヒーの淹れ方講座」を講師の方をお招きして行いました。今後、教職員と保護者が協力し、生徒たちの自立を手助けできるように活動を積極的に展開していきたいと思っています。

請求なければ支払いなし

(一社)全国高P連賠償責任補償制度

PTA単位で加入する制度で発足後18年目となりました。
令和元年5月1日付
〈加入状況〉全国 2,214校 1,259,408人
岩手県 68校 26,109人
〈事故の際は〉全国高P連賠償責任補償制度事故受付電話
0120-119-110 (24時間365日受付)

岩手県高P連高校生総合保障制度

〈加入状況〉令和元年5月20日現在
Sプラン(病気補償あり) 62校 1,236人
Aプラン(病気補償なし) 55校 332人
Bプラン(病気補償なし) 60校 570人
Cプラン(自転車重点型) 62校 1,091人
〈お問い合わせ〉AIG損害保険株式会社盛岡支店
TEL 019-651-0584

日常の高P連の各種活動においても、各学校の協力をいただきながら運営にあたりましたが、役員の方々には積極的に活動していただきました。事務局長の先生には役員の方や学校と頻りに連絡をとっていただく等たいへんご苦労をおかけしたと思います。

PTAの活動はあくまでも各学校の活動が中心で、高P連の役割は会員相互の情報交換、全国高P連や関係機関との連携、そして会員自身の研修のお手伝いをする事だと思っています。

この仕事を通して各学校の活動や各地域の様子を知ることができました。新しい発見もたくさんありましたが、何よりも会員の方々といういろんな場面で話をしたり一緒に活動することが嬉しく充実した8年だったと思っています。

今後とも高P連の活動を陰ながら応援していきたいと思っています。各学校・各地域のますますの発展をお祈りしております。



退任にあたって

岩手県高P連前事務局長
高橋 秀幸

平成23年から8年間高P連の事務局長を務めさせていただきました。各学校の会長さん、校長先生、事務局長の先生を始め会員の皆様には本当にお世話になりました。高P連の活動にご協力をいただきましたことに改めて感謝申し上げます。

私の初めの仕事は直後に発生した東日本大震災の対応でした。各学校から義援金のご協力をいただいたこと、配分について関係者に相談しながら対応に苦慮したこと、被災校を訪問したときに被災地の光景を見て、あまりの変わりようについて涙が出てしまったこと、全国からいろいろな形で多くのご支援をいただいたことが忘れられません。

平成28年の熊本地震、台風10号、平成30年の西日本豪雨と災害が続きましたが、皆さんの心温まるご支援には感謝の気持ちでいっぱいです。

平成27年の全国高P連岩手大会では1万人弱の参加者を盛岡に迎えての大きな大会でしたが、実行委員会を始めたくさんの方々に大会運営に関わっていただき、何とか無事終えることができました。私にとっては忘れることができない思い出になりました。

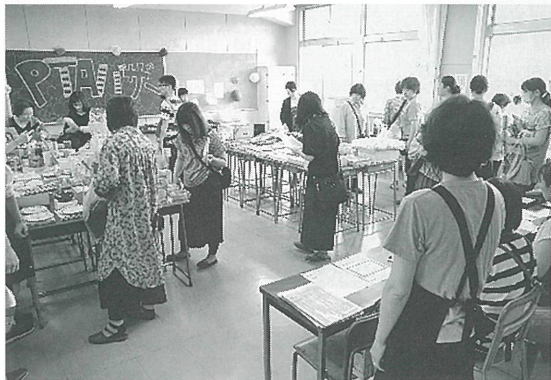
糧となる活動

盛岡市立高等学校
PTA会長

井上 美智子



本校は県内唯一の市立高等学校であり、近くには雫石川、そびえたつ岩手山、早苗が風になびく田んぼに囲まれた校舎、とても環境に恵まれた場所に設けられている学校です。「若き日に身体を鍛え、知能を磨き、情操を深め、教養を積み」の校訓を掲げ、来年度は創立100周年を迎えます。学習面での取り組みは勿論の事、部活動も盛んであり、数々の部が全国大会出場を果たしています。生徒の活躍を誇りに思うと同時に、学校全体が活気あふれているのも、学習と部活動の両立を全員が目指すことで、充実した学校生活を送っているからだと思えます。本校のPTA活動は、そ



▲桜窓祭の母親委員会によるバザーの様子

のような生徒と学校を応援するために、総務委員会、健全育成委員会、研修委員会、調査広報委員会、母親委員会の5つの委員会を設けています。その中でも文化祭である「桜窓祭」での父母によるバザー、餅の振る舞いなどを毎年行い、その収益金や募金はAEDの維持費として活用しています。教職員、同窓会、地域の皆様、そして沢山の保護者のご協力があるからこそ成り立っているPTA活動だと思っています。今後とも子供達がより良い学校生活を送れるよう、PTA活動をより良いものにしていきます。

小規模でもキラリ輝く学校をめざして

岩手県立種市高等学校
PTA会長

向井 商浩



本校には、普通科と、潜水と土木の基礎的知識・技術を学ぶことができる全国唯一の海洋開発科が設置されています。部活動も盛んで、特にレスリング部は国体や県大会での優勝実績がある強豪校です。PTAの主な活動としては、夏休み明けに実施する朝の一声運動があります。長い休みから再び始まる学校生活を新たな気持ちでスタートしてほしいという親の願いからの時期に実施しており、会員が声掛けすると、生徒たちは少々照れくさそうな表情をしながらも、明るく元気にあいさつを返してくれます。また、10月に行われる種高祭ではPTAバザーを実施。



▲「南部ダイバー」グッズを求めて遠方からも来訪

2週間ほど前からメールなどで物品の提供を呼びかけ、集まった物品の販売のほか、NHK朝の連ドラ「あまちゃん」で話題となった海洋開発科に伝わる南部ダイバーという歌の歌詞をプリントしたTシャツも販売しています。これを目当てに遠方からも訪れる方がいるほどの人気ぶりです。売上は生徒たちの活動や環境整備に充てられています。準備から当日の販売を通してPTA会員同士の親睦も深まる素晴らしい活動です。今後も、生徒たちがそれぞれの夢や希望に向かって活躍できるよう、環境づくりに努めていきたいと思えます。

編集後記

平成が終わり、令和が始まった。その変わり目には、「平成最後の〇〇」というフレーズがあらゆるところで聞こえていた。平成に名残を惜しむ人が多かったのだろうか。それとも次の時代への期待が大きかったのだろうか。

思い起こせば、平成はいろいろなことがあった。楽しいこと、嬉しいこともたくさんあったが、それだけではなかった。いまだに思い出すのが辛い記憶もある。けれども、確かな事実として、日本では、戦争の中に児童や生徒、学生が直接関わることにはなかった。それはとても、得がたいことだ。

令和がどういう時代になるかはもちろん分からないが、今目の前にいる子たちが大きな役割を担うであろうことは確実だ。願わくは、令和がこの子たちに、希望と夢を与えてくれる平和な時代であって欲しい。そして、彼ら一人ひとりが、たとえ困難に出会っても、くじけることなく未来を生き抜く強さを身につけて欲しい。

時には寄り添い、時には距離をとりながら、子供たちの自立を見守ることが私たち大人の役割だ。平成から令和への変わり目は、そういうことを改めて考えさせてくれた。

(調査広報副委員長・上山黎明)

〈編集委員〉令和元年度調査広報委員会

- 委員長 小田代雅裕 (宮古商業)
- 副委員長 上山 黎明 (宮古北)
- 委員 新坂 正章 (盛岡南)
- 小野寺順子 (水沢工業)
- 貫牛 利一 (久 慈)
- 岩淵 宗仁 (宮古商業)
- 佐藤 尚 (県高P連)
- 木村 智子 (県高P連)

◇事務局

- 岩淵 宗仁 (宮古商業)
- 佐藤 尚 (県高P連)
- 木村 智子 (県高P連)